



### 南海トラフ巨大地震の発生を想定し防災訓練を実施しました

10月25日、関係行政機関や地域住民など、約700人が参加して防災訓練を実施しました。メイン会場(県消防学校)では、地域住民の避難訓練や、関係機関による災害対応訓練などを行い、サテライト会場[郡司分岐原(くじぶんかきはら)地区、佐土原町二ツ立(ふたつだて)地区]では、津波発生を想定し、地域住民が津波避難タワーへ避難する訓練を行いました。今後も、行政と地域が一緒になって、災害に強いまちづくりに取り組んでいきます。

### 日向路を華やかに彩りました

10月31日から2日間、「神武さま」の愛称で親しまれている宮崎神宮大祭が開催されました。14神による「神々のパレード」やミスシャンシャン馬などがまちを練り歩き、会場は多くの人で賑わいました。また、31日の夜には、歩行者天国となった高千穂通りの神武さま広場で、縦2.7メートル、横8メートルのパネルに映像を投影する「プロジェクションマッピング」で14の神々を紹介しました。



# Miyazaki Topics

宮崎市 旬の話題 “みやとピ”

### まちなかの魅力を再発見しました

10月24日と25日の2日間、「まちのトレジャーハンティング@宮崎市」を開催。24日には空き家、空き地、人的資源や歴史などをお宝と捉えて、1チーム6,7人の4チームが橘通東、橘通西、旭・川原町、青島の地域に分かれて宝探しを行い、その宝をどのように活用すれば地域の魅力が高まるか、ワークショップを実施しました。25日には報告会が行われ、約150人の観客を前に、検討した新たなまちの可能性について熱く語り合いました。



### 大塚さくら公園がオープン

10月11日、大塚台緑地の一部を広場として整備した大塚さくら公園(通称)が完成し、オープニングセレモニーが行われました。子どもたちが安心して遊べる場所を提供しようと、地域住民の皆さんと市が協力しながら、雑林を切り開いて整備し、芝張りや桜の植栽などを行いました。公園には傾斜を利用した冒険のできる山道や草スキー場などもあり、子どもたちが楽しく遊べるよう工夫されています。



↓ 昭和38年12月号が電子書籍で読める!



今回の旅行先 昭和38年

大公開! 市庁舎の歴史

今月発掘するのは、昭和38年12月号の「新市庁舎の完成 新庁舎への移転は8日から」です。表紙に写っているのは、現在の本庁舎が完成した当時の写真。なお、この号は完成を記念して、記事の大半が新庁舎に関する内容。真新しい庁舎を写真で紹介するコーナーもありました。



※QRコードの読み取りには、アプリ「QR・JANコード読み取りバーコードリーダー」を推奨しています。



### 思い出の市庁舎一覧 ここでは歴代の3つの庁舎を紹介します。



3代目庁舎

供用開始…昭和24年2月14日  
場所…広島1丁目(現在の別府街区公園)  
戦後のインフレの厳しい情勢の中、新設され、市民に復興への意欲をもたらしたといわれている。



2代目庁舎

供用開始…昭和8年3月22日  
場所…橘通東1丁目(現在の県庁前交差点付近)  
第二次世界大戦の空襲は免れたが、昭和22年12月の火災により、ほとんどが焼失。



初代庁舎

供用開始…大正13年4月1日  
場所…宮田町(現在のみやざき物産館 KONNE)  
宮崎町、大淀町、大宮村の2町1村が合併して市制施行。旧宮崎町役場を使用した。



まさはる 日高 雅治さん (81歳)

今の市庁舎が出来た時、私は20代で教育委員会に所属していました。当時は住民票や戸籍などの台帳が全て手書きだったので、新庁舎の引っ越し前日は夕方まで窓口業務に従事した後、翌朝の始業に間に合うよう徹夜で荷物を新庁舎に運び込んだことを覚えています。3代目市庁舎は木造2階建てだったため、当時まだ珍しかった鉄筋コンクリート5階建ての真新しい建物には感激しましたし、大淀川の眺めにも感動しました。宿直室や消防本部、消防の望楼など、かつてあった設備のことも懐かしく思い出されます。

### 地名むかしむかし 2015 ⑦ 「くらおか」

昭和35年4月号から1年間連載されていた「地名むかしむかし」。市内のいろいろな地名の由来を当時の文章のままお届けします。

昭和35年11月号より



写真は当時の倉岡

倉岡はもと東諸県郡に属していたが、宮崎市に合併したものであることは周知のとおりである。(中略)もともとこの地方は穆佐院の一部であったと言われている。院というのは奈良、平安時代に人民が租税として納める稲を収納する範囲をいっただもので古くは郡に一院あったが、収納のための便利や火災の防止などのために郷にも院が置かれることになった。穆佐院もこのようなものであった。だから院には税として納められる稲を保管するための倉があった。(中略)倉岡という地名はこのことから起ったものであるうと思われる。糸原あたりは川にかこまれて岡があり、院の倉を置くにはもつとも適当な土地のようである。